

2001年

1
月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 96



写真：「心を清めて」乙黒 勝さん（京都の妙心寺塔頭にて）

もくじ

2 特集 インタビュー 高橋 清・川崎市長

6 生涯学習ア・ラ・カルト

8 イベントパーク

お知らせ…事業団の各事務室の移転と電話番号変更

特集

インタビュー

高橋 清・川崎市長

いまを話す

題字：高橋 清 市長

高橋清市長は、都市が抱える環境、福祉問題、高齢者、外国人市民、教育などの現代的課題に対して、その解決に向け情熱を傾けて取り組んできました。

市長は、川崎だからこそ必要な施策、川崎だからこそできる施策を市民に投げかけ、市民と行政のパートナーシップを築きながら、今問われている“分権”の実質化への先取りをしています。

昨年12月、全国で初めて制定された「子どもの権利に関する条例」や生涯学習、生涯現役大作戦など、21世紀を切り開く先進的な取り組みについて、その抱負の一端をうかがいました。

聞き手は麻生区在住の音楽家、丸山博子さん。



新世紀を切り開く 市民と行政のパートナーシップ

——明けましておめでとうございます。麻生区の丸山と申します。よろしくお願ひします。いよいよ新しい世紀を迎えましたが、今日は高橋市長さんに21世紀へのメッセージをこめて、インタビューさせていただきたいと思っています。

市長さんは川崎市の生涯学習振興事業団の理事長もなさっていらっしゃいますが、これからの生涯学習についてどのようにお考えでしょうか。

市長 新年明けましておめでとうございます。21世紀を迎え、市民のみなさんとともに健康で幸せ多いことをお祈りしたいと思います。

私たちは、20世紀を顧みながら、新しい気持ちで新世紀に夢と希望を託すことが大切だと思います。そのためにも生涯学習事業は、私たちの人生を豊かにし、川崎市民の元気の源になる、たいへん大事なことだと思います。

急速な高齢化社会の進行、余暇の増大など社会構造が大きく変わり、私たちは常に人生のそれぞれの段階で変化に対応していく必要に迫られています。そのためには市民のみなさんが主体的に、「いつでも」「どこでも」「だれでも」参加できる機会や施設があってこそ充実すると

思います。

市長である私が生涯学習振興事業団の理事長をしているのも、行政の役割が重要であり、両者の連携が不可欠であると考えてのことです。

他都市でもいろいろなかたちで生涯学習の振興をしています。東京の世田谷区や名古屋市などは、川崎市よりも早くから行っていますね。そこでの方法をいろいろ学び、川崎は独自の新しいものにしましょうということになりました。それは当時、碓井正久・東京大学名誉教授などを中心に、生涯学習の体系を整えていただき、学校教育や社会教育の枠を越える新たな視点で学びの場を創ろうということになりました。教育委員会で行っている枠をもっと広くしようという意味では、年代を越えて市民の交流が活発に進んでいる生涯学習はたいへん意味があるんじゃないでしょうか。

特に「かわさき市民アカデミー」は、高齢者の方々が、自分たちに時間が相当できたのでこれから勉強したい、今まで勉強しなかったのでもしてみたい、あるいは今まで勉強していたことをもっと継続したいという願いがありまして、それも半端な勉強じゃなくて本格的な、指導者もしっかりした人に学びたいという、そういう意欲のあ

る人たちが相当おいでになりますね。

やはり人生80年、健康・長寿であること、これは「いつでも」「どこでも」「だれでも」実践、参加できるという生涯学習の大事な目標でもあると思います。

——確かに、「市民アカデミー」のプログラムを見せていただきましたら、多岐にわたる学習分野で、しかもそれが具体的な内容でした。取り組みやすい感じを受けました。

市長 学習するにはやはり施設や場所も大事ですよ。川崎市では中原区に「生涯学習プラザ」という本拠地もつくりました。中身についても、市民のみなさんの多様なニーズに応えるよう、さまざまな分野を取り上げ、講座数も相当多くなりました。

そして指導する人も、私たちは「超一流」と言ってお



多摩川ハーフマラソンコースを走る市長

りますが、そういう人たちがおいでになっていますから、非常に魅力的で、幅が広い。指導者が優れているという点ではよそに負けないものだと思います。生涯学習担当の方々にも、私たちは非常に感謝をしております。

また、市民アカデミーで学習したことを地域にお帰りになって回りの人に伝えたり、個人の学びに留まらないで、地域の人と一緒にまちづくりに尽くされるなど、川崎市の行政についても積極的に発言され、川崎市を良くしようとする具体的な行動をされている方もおられます。

——私は生涯学習を「子どもからお年寄りまで、生き方そのものを共に学ぶ」というふうにとらえているのですが、長い人生行路の中で、ある部分、市民の目から見たらどうしても生涯学習というと、何かお年寄りのものというイメージがまだまだ根強いようです。市長さんのお考えはどのようなものなんでしょうか。

市長 私は、生涯学習というのは「生まれた時から死ぬまでの一生涯・全部学習」という意味だと思います。生涯学習というと、高齢者の方に特に力を入れている、そう思われるのは、生まれてから保育園とか幼稚園、さらに小学校・中学校・高校・大学で勉強し、会社に入れば

職場で研修する機会がありますよね。ところが、お年寄りの場合ですと、そういう機会がなかなか得られないという事情があるんです。

お年寄りの1割の方は特別養護老人ホーム、あるいは老人ホームや病院に入っておられます。体があまり丈夫でない、介護を受けなければならないという人がいる一方、9割の方はみなさんお元気なんですよ。この9割の方が先ほど話しましたとおり、いろいろお仕事に就いている方もおられますが、今まで学習出来なかった事を積極的に学習したいという意欲を持っておられる方もいますから、それにお応えする意味で生涯学習振興事業団として力を入れているわけです。これは、悪いことではないと思うのです。申し上げましたとおり、若い人たちにはいろいろな機会がちゃんと準備されているんです。高齢化社会を迎えて、学校とは違う視点の学びの場を高齢者に用意しなくてはならないと思います。

——なるほど。

市長 それはそれとして意味のあることだなと思います。

——市長さんは、すごくお元気でますますエネルギッシュに見えますね。

市長 生涯学習振興事業団の理事長ですからね(笑)。

——人生80年、長寿現役生き生きライフのパワーアップのために、市長さんが打ち出された「生涯現役大作戦」の構想をお聞かせください。

市長 川崎市では、現在9割近い高齢者の方が、健康で自立した生活を送られています。こうした高齢者の方々が、豊かな経験や知識を生かして健康づくりや地域社会への参加ができるよう、「生涯現役大作戦」を市民総ぐるみの運動として展開しています。

この大作戦は、高齢者の活力を生かせる仕組みづくりとしての「生涯現役社会づくり」と、高齢者の寝たきりなどの予防、健康づくりを促進する「生きいきすこやか地域づくり」を2つの柱として、その推進を図っています。

現在、地域ではシニアリーダー養成講座の修了者が、ネットワーク組織「かわさきシニアリーダーの会」を立ちあげ、高齢者に地域活動への呼びかけを始めました。また、インターネットによる高齢者の情報スペース「生涯現役クラブ」では100人近い高齢者が、仲間づくりの情報交換を行うなど、活発な活動が行われています。

私は、元気な高齢者が今後ますます社会参加できるように、学ぶ場を充実させることと、働く場をつくること、もうひとつは運動・スポーツする場の拡充を進めることが必要だと思っています。

生涯現役大作戦に関わっている人からは「スポーツす



聞き手の丸山博子さん

る場所がない」という意見をうかがいます。今度、多摩川の河川敷でパークボールをする場所を用意しました。建設省の了解も得ましたので、今年の春から利用していただけます。パークボールというのはゴルフと同じようなルールで、ボールがゴルフボールより大きいものです。今後、このような場を増やしていく予定です。

「学習できる場」、「働く場」、「運動できる場」の3

つが「生涯現役大作戦」の核ですね。

——高齢者の力を発揮できる場が増えるといいですね。ところで、少子高齢化社会で子どもたちの数も少なくなってきましたね。子どもの方に目を向けますと昨年12月の議会で、「川崎市子どもの権利に関する条例」が成立しました。この条例をつくらうと思ったのはなぜですか。

市長 実は、1989年「子どもの権利条約」が国連で採択されました。これは世界中で法的に拘束力を持つ、歴史上初めての“子どもの権利の取り決め”なんですね。日本でも1994年に批准しました。川崎市はこういう人権の大切さを背景に、全国で初めて「子どもの権利に関する条例」をつくることにしました。この条例は、川崎にとってたいへん誇らしい条例だと思います。

私たち大人は、21世紀を担う子どもたちに未来を保障していかなければなりません。「権利」をどう考えるか、子ども観、子どものあり方を親や社会全体で考えていくことが大切なんです。

そういう意味では、条例文をつくることを目的としたのではなく、子どものあり方など、市民のみなさんの理解を求め、子どもや市民の方と一緒に条例案をつくる前からいろいろ考え合ってきました。

私も、小学生・中学生・高校生とも話し合い、市民集会

丸山 博子 さん (まるやま・ひろこ)

1951年生まれ。麻生区文化協会の総務担当。「あさおランチタイムコンサート」実行委員会委員長。「フレッシュアンサンブルかわさき」代表。麻生青年教室「音楽のパレット」のボランティアスタッフ。98年、テレビ神奈川の新春番組「川崎市長と語る」に出演。99年、絵本の読み聞かせ・朗読グループ「絵本と仲良し」を結成し、地域を中心に活動中。麻生区白山在住。

生涯学習は元気の源 学校・社会教育の粋こえて

などでも意見を聞いてきました。このようなプロセスそのものが、社会全体に訴えることにもなったと思います。権利条例づくりは子どもの健全育成を図るということでもありますね。ある意味では20世紀を総括することでもあり、批准された「子どもの権利条約」を自治体に引き寄せ、その内容を具体的に明示し、地方で具現化していくということでもあると思いますね。

——子どもの権利条例というのはつまり私たち大人へ課せられた条例でもあるわけですね。

市長 そういことですね。条例の精神が尊重され、子どもたちの権利を保障し、市民の皆さんが力を合わせて、子どもたちが生きいきとして元気に育つよう、親御さんとともに力を合わせ支援しなくてはならないと思います。



「子どもと市長が語る会」で子どもの意見を聞く市長

——21世紀は今の子どもたちが、厳しい環境の中で、これからの川崎市を担い、社会を背負って行くことと想います。そういうこれからの子どもたちに対するメッセージをお願いしたいのですが…。

市長 川崎には20歳前の子どもたちが24万人ほどいます。4年前に、子どもたち自身によるまちづくりをめざして「川崎子ども・夢・共和国」ができました。夢・共和国で活躍する多くのサポーターたちや、別に設置している「子ども会議」で継続的に発言・行動している子どもたちがたくさんいます。

スポーツ面でも、小学校の連合運動会や中学校の総合体育大会には、25,000人もの児童・生徒が等々力競技場で力強い演技や競技に参加しています。子どもたちは家庭や学校で培ったエネルギーとパワーを最大限に発揮していますね。これは文化の面でも言えると思いますよ。しかし、他方では悩みを抱えている子どもさんや親御さ

人もいらっしやいます。

私は、子どもにまず“元気であって欲しい”と思います。友達のこと、学校のこと、家庭のこと、何をするにも親から授かった「命」があり、その命を大切にしたいと願っています。そして、古くから言われておりますが、知識と身体と精神的なもの、つまり「知・体・徳」を鍛えて欲しいと思っています。

それから、“元気で世界の人たちの仲間入りをして欲しい”ですね。子どもたちは平和の大切さを知っていると思いますが、世界の人々との深い交流によって、環境・



文化・経済・平和など地球規模での問題も解消していくのではないかと考えています。

私は、今世紀を担う川崎の子どもたちに“夢と勇気を持とう”と大いなるエールを送りたいと思います。

——子どもたちといえば、昨年6月、学校施設を活用した「ふれあいデイサービス」が、川崎小学校と河原町小学校で始まりましたね。

市長 私もオープンの際に川崎小学校へ行きました。半年経っていますが、うまくいっているようです。学校の余裕教室を利用していますが、子どもたちの隣にデイサービスのお年寄りがいる。隣り同士ですからいつでも交流できていいですね。そういう場がどんどん増えていくと、昔の遊びとか生活の体験などを身近に、自然な形で伝えることが出来ると思います。

——川崎市は外国籍の方も多いと聞いています。共生のまちづくりのためにどのようなことに配慮されていますか。

市長 いま川崎市には2万人を超える外国籍の方が住んでいます。いろいろな考えがあると思いますが、市民として税金も納めて地域と一緒に住んでおられるのですから、川崎市では「共生の社会をつくろう」と努めています。そのためには、市民としてまちづくりに対する意見やいろいろな提案をしてもらうことが大事だと思いますので、条例をつくって「外国人市民代表者会議」というものを設置しました。「外国人だから違いますよ」

ではなくて、市政に参加してもらおうということです。そして、出された意見に耳を傾け、改善できることから取り組んでいくことが必要だと思います。

川崎市では、昨年の4月から、全国に先駆けて外国人の方や、お年寄り、障害のある方を対象とする「居住支援制度」をスタートさせました。外国人の方などがアパートを探しても、保証人の問題や入居後のトラブルの心配などから、なかなか部屋が借りられないわけです。そこで、家主さんや不動産屋さん、また保証会社にも協力していただいて、一定の条件を満たせば入居できるという仕組みをつくりました。この制度は、「外国人市民代表者会議」からの提案の一つを、まずできるところからということで実現させたものなんです。



——共生のまちづくりを進めていくためには、地道な取り組みの積み重ねや地域の理解が必要なんですね。

市長 お年寄りにしましても、子どもたちや外国人の方にもしましても、地域で一緒に暮らしている仲間同士なわけですから、お互いに尊重し合い、「共に生きて行きましょう」という気持ちを持たなければうまくいかないと思うんです。

そのためには、お互いに交流したり、意見を出し合ったりする場をたくさんつくっていくことが大事ですね。

——市長さんのお話をうかがっていると、子どもたちのことでも、高齢者や外国人市民のことにしましても、築き上げてゆく過程を大事にして長い目で見ていらっしやるといことがわかります。未来に希望が湧いてきました。今日はお忙しいところありがとうございました。

高橋 清 さん (たかはし・きよし)

1925年宮城県生まれ。44年、宮城師範学校卒業。宮城県国民学校訓導。55年、川崎市立古市場小学校教諭。67年、同校教頭。72年、川崎市教育委員会教職員部長。74年、職員局長。83年、助役。89年、市長就任。現在3期目。特技は剣道(錬士)、将棋(3段)。趣味は読書、旅行。毎日1万歩以上歩くことを健康法としている。

信条は「報いられることを期待しない奉仕」。座右の銘は「心如海(心が広く大海のように)」。

●まなぶ●

講演会

— 新しい働き方 (SOHO) —

パソコン在宅ワークに
向けての可能性講師：かわさき夢オフィス「創房(そうほう)」運営委員
株式会社 キャリスト 代表取締役 笠松 ゆみ

自宅などの小さな事務所で仕事ができるSOHO (Small Office Home Office) という新しいワークスタイルの実践者として活躍されている講師が、パソコンネットワークを利用した新しいビジネスやライフスタイルについて話します。これからの時代に定着しつつある新しい働き方としての「在宅ワーク」のあり方、進め方、実情などについて学び、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。

講演終了後は交流会を開催します。講師を囲んで、講演では聞けなかった質問や相談をしたり、参加者同士の交流・情報交換をする機会を設けます。

日時：2月3日(土) 14時から
場所：新百合21ホール (新百合ヶ丘駅下車徒歩2分)
費用：講演会のみは無料、交流会参加は2000円
定員：200人

*申し込みは、1月15日(月)までに下記あてに郵送またはE-Mailで。住所、氏名、電話番号、交流会への参加・不参加を明記してください。

〒210-0011 川崎区富士見2-1-3教育文化会館4階
学習事業室「SOHO」係
メールアドレス info@ageless-net.com

◆パソコン教室受講者募集◆

中高年離職者のための パソコン初級講座
(インターネット含む)

日時：2月19日(月)～23日(金) 全5回
コース：A…9時～13時/B…14時～18時
場所：かながわサイエンスパーク
(溝ノ口駅下車徒歩10分)
費用：10000円 (テキスト代含む)
定員：各コース20人
※応募方法は直接お問い合わせください。

問い合わせ 学習事業室川崎分室 ☎044(200)3845

生涯学習ア

●たのしむ●

大人のための健康づくりスポーツ
「健康体操教室」ほかを開催

生涯学習プラザの耐震工事が1月下旬に終了します。市民の皆様にはご不便をおかけしましたが、2月からフィットネスルームでの講座を再開します。多くの方々の参加をお待ちしています。

◆健康体操教室

2月3日～3月24日の毎週土曜、10時から 全8回
受講料…4000円 定員…30人

◆エアロビクス教室

2月6日～3月13日の毎週火曜、10時から 全6回
受講料…3000円 定員…40人

◆ヨガ教室

2月19日～3月26日の毎週月曜、14時から 全6回
受講料…3000円 定員…40人

*場所はすべて生涯学習プラザフィットネスルーム

申し込みは、1月22日(月)必着で、往復はがきに教室名、住所、氏名、年齢、電話番号を記し、下記あてにお送りください。

〒211-0052 中原区等々力1-3とどろきアリーナ内
財川崎市生涯学習振興事業団 スポーツ事業室

問い合わせ スポーツ事業室 ☎044(798)5348

●さがす●

仲間づくりのお手伝いをします

市内42カ所に設置された「ふれあいネット」利用者端末の「情報の種類で探す」をタッチすると11に区分けされた情報が出てきます。その中の「団体・グループ情報」のコーナーでは、さまざまなグループの活動内容・活動日・入会条件・会員数などを見ることができます。現在「ふれあいネット」に登録しているグループは418件です。あなたの趣味や関心事に合う仲間が見つかるかも知れません。どうぞご利用下さい。

また、仲間・会員を増やしたいとお考えの団体・グループの登録も受け付けています。ご連絡頂くと、こちらから調査用紙をお送りします。登録ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

ラ・カルト

●はぐくむ●

21世紀の青少年
学校週5日制と子どもたち

現在、学校週5日制は第2・第4週の土曜日に実施されていますが、2002年からは完全実施となります。子どもたちはどのような夢を描いて新しい世紀を迎えたのでしょうか。



生涯学習振興事業団では「学校施設校庭開放」「プール開放事業」「夜間校庭施設開放」「遊びの広場」を市教育委員会からの受託事業として実施しております。また、子どもたちが自然の中でさまざまな体験をする「ふれあいサマーキャンプ」を宮崎県日向市、長野県富士見町、北海道中標津町、岩見沢市、岩手県東和町で行っています。

ここ数年、情報化社会の到来、家庭や地域社会の変化などで、子どもを取り巻く環境は大変厳しくなっています。子どもたちによる衝撃的事件の続発、犯罪の低年齢化などが連日のようにマスコミで報道されています。このような事件について子どもたちに意見を求めると、多くの子どもは、事件をおこした彼らの「気持ちはわかる」と答えています。このことは、子どもたちの多くが、事件を起こした彼らと、どこか相通じる苦悩を抱いているといえるのではないのでしょうか。

学校週5日制が完全に実施された時、子どもたちは休日をさまざまな活動に利用することでしょう。スポーツに汗を流す子、家族との団欒を楽しむ子、図書館で学び、市民館での催し物に参加する子、海や川に出かける子、福祉施設や地域でのボランティア活動に参加する子など。子どもたちは、それぞれの興味と関心を持つ分野で、学校では学ぶことの出来ない体験をすることと思います。

生涯学習振興事業団の青少年活動事業室は、21世紀を担う子どもたちの活動が思う存分に展開されることを願い、ソフト・ハード面から積極的に支援していきたいと考えています。そして、満面笑みを浮かべた子どもたちの、明るく生き生きとした声が響きわたる、そんな社会の実現を心から願っています。

問い合わせ 青少年活動事業室 ☎044(221)8100

ハート & ハーモニー Vol.8

スポーツの生活化と生活のスポーツ化

「一年の計は元旦にあり」とも言いますし、テレビのスポーツ番組に「今年こそは身体を動かす年にする」と一念発起する人もあるでしょう。「ありきたりの生活では運動不足になる」「身体を動かすことは良いことだ」と頭の中に入っている積りでも、おながすくのと同じように身体が動かたがることではないので、気が付いた時にはまた一つ年を取っていたりします。反省と後悔が残っても、そのストレスは美味しいものを食べたりしないと発散できないのでは、さらにジレンマが深まるかも知れません。

運動が生活の中で習慣化しているかどうかの基準は色々に考えられますが、意識した運動を1回30分以上、週2回以上、1年以上継続という「甘い」基準の国民栄養調査では、これに達しているのは30代までは男女とも20%未満、60代以上でやっと30%を越える程度(1998年)です。168時間(1週間)の内1時間を運動に振り向けることは、そんなに大変なことなのでしょうか？

酒、タバコ、車、テレビ、長電話、仕事のどれよりも「自分のからだ対話すること」(この言葉を何とシドニーオリンピックの女子マラソン優勝者が使いました)は優先順位が低いのでしょうか？

自分自身の身体を手入れしながら快適に使うために、生活の中に十分なスポーツを取り入れることを「スポーツの生活化」と言います。これは生活の価値観の転換です。大切なものは何か？を、他人に聞く前に自分の身体に聞いてみることをお勧めします。

ある日眼からウロコが取れて、日常的に身体を動かす生活が続くと、少しずつ身体の中での改革が進んでいきます。持久力が付く、筋肉が増える、皮下脂肪が減る、体型が締ってくる、姿勢がよくなる、胃腸の働きがよくなる、機嫌がよくなる、などなど。その一つひとつも嬉しいことですが、「身体は動くのが当たり前」になるのが身体改革の根本です。日常生活の中で身体の使い惜しみをすることなく、自然に必要な運動量と筋力などの身体機能の維持ができていた状態を「生活のスポーツ化」と言います。労働で消費エネルギーを増やせることもありますが、多くの場合、労働は体力の消耗であっても、バランスの取れた体力増進にはつながっていません。

スポーツには自分で確保する時間に加えて、仲間やアドバイザー、周囲の環境も必要ですが、小さなスポーツの場は生活の中に探せば見つかるものです。

(健康教育担当 スポーツドクター 野田晴彦)

情報コーナー **イベントパーク** 講座・コンサート他

●新春初笑い寄席

1月20日(土)18時開演、川崎市民プラザ。出演は牧伸二、林家こん平他。定員500人。全自由席。前売り券1800円をプラザフロント他で販売中。☎(888)3131。

●①わくわく実験ショー～空気の実験

②ガリレオ科学実験教室～霧箱で放射能を見てみよう

①は1月13日(土)②は1月27日(土)、場所は東芝科学館。時間は①②とも10時と13時半。①無料②300円。要予約。

☎(549)2200。

●テクニカルフォーラム

～環境に優しいリサイクル社会をめざして

1月26日(金)13時から、川崎市産業振興会館。無料。安井至・東京大学教授の基調講演他。先着300人。☎(322)6078のNKKテクノサービス研究支援部。

●玉川大学公開講座～スポーツ栄養講座

1月20日と27日土曜10時から、全2回。講師はトータルボディケア院長の高橋直樹さん。定員20人。受講料20000円。☎042(739)8895の同大継続学習センター。

●①社交ダンス特別講習会②春のフラワーデザイン講習会

①は2月17日(土)13時から、川崎市民プラザ。クイックステップの基本と応用を学ぶ。対象は初・中級者。定員は男女各25人、先着順。受講料2500円。②は2月26日(月)10時から、同所。生花をバスケットに生ける。定員20人、先着順。受講料は2500円(花材費込み)。☎①は1月13日(土)から②は1月15日(月)から、プラザフロントに。☎(888)3131。

●NKK市民大学講座～鉄づくりの中の先進技術

2月16日(金)13時半から、川崎市産業振興会館。鉄がどのように作られ活かされているか、鉄鋼生産の最先端を紹介。講師はNKK技術開発本部の研究員他。無料。☎(322)6078のNKKテクノサービス研究支援部。

●成人学校～①IT革命がわかる!②籐工芸

①は1月27日～3月3日の土曜13時半から、全5回。場所はプラザ橋。②は1月18日～3月15日の隔週木曜10時、全5回。同所。受講料各2000円。教材費は別途。定員各30人、抽選。☎①②とも1月13日(土)10時に来館。☎(788)1531。

●ダンスパーティ

2月17日(土)18時半から、川崎市民プラザ。前売り券1800円。定員180人。先着順。☎1月10日(木)よりプラザフロントにて販売。



●フレッシュアンサンブルかわさき=写真=in 2001

①音楽とあそぼう②独奏とアンサンブル

1月14日(日)、麻生市民館で。①は12時半開演。対象は0才～小学生までとその保護者。わらべ歌、器楽演奏他。②は14時開演。対象は小学生以上。クープラン「ファゴットとチェロのための二重奏」他。無料。☎(951)1300。

●書～わたしの筆文字展

1月15日(月)から27日(土)、場所はスナック喫茶琴。宇佐美史紅の書を展示。☎(544)0507。

●平成12年度後期講座受講者発表会

2月1日(木)と2日(金)9時から、麻生老人福祉センター。健康体操、太極拳、ダンス、民謡の発表。☎(966)1549。

●囲碁・将棋大会

2月14日(水)9時半から、麻生老人福祉センター。対象は60歳以上の市内在住者。定員は囲碁60人、将棋20人、先着順。無料。☎1月5日(金)から18日(木)まで電話または直接来館。☎(966)1549。

川崎の友好自治体 岩手県東和町が舞台のドラマ放映

サマーキャンプでお世話になっている岩手県東和町が舞台のNHK正月ドラマ「夢駆ける大地—私、牛を飼います」が、1月2日21時～22時30分、総合テレビで放映されます。

このドラマは、畜産農家を夢見て東和町に移住し、町職員となった元農水省キャリアの役重眞喜子さんをモデルにしたもので、役重さんの著書「ヨメより先に牛(ベコ)がきた」(家の光協会)が原作。若い女性が農村に飛び込み、地元の人々に支えられながら牛を飼い、やがて農家の嫁となって大地に根を張り自立していくという物語です。どうぞご覧ください。

生涯学習プラザ工事完了に伴う各事務室の移転と電話番号変更のお知らせ

耐震補強工事のため、半年間生涯学習プラザを休館していましたが、2月1日から貸館業務を再開します。同時に事業団の各事務室も再びプラザに戻り、電話番号が下記の通り変更になります。

1月中の電話番号

2月からの電話番号

- | | | |
|-------------------------------------|---|----------------|
| ●学習事業室…☎044(431)1051 | → | ☎044(733)6626 |
| ●スポーツ事業室…☎044(798)5348 | → | ☎044(733)5572 |
| ●青少年活動事業室…☎044(221)8100 | → | ☎044(733)5893 |
| ●ステージ・アップ…☎044(798)5311 | → | ☎044(733)5811 |
| ●健康教育担当…☎044(798)5349 | → | ☎044(733)5641 |
| ●総務室…☎044(733)5560/FAX 044(739)0085 | | ※総務室はいままで通りです。 |